

柱 3 環境共生

主要指標 森林整備による西山の森林のCO₂吸収量

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
累計 1,576t-CO ₂	累計 1,638.85t-CO ₂



森林整備を推進した結果、前年度 1614.41 t-CO₂ から 24.44 t 増加し、目標を達成しました。

サブ指標 西山における植物調査で確認できる種の数

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
種の数維持(168種)	182種



西山において継続的な植物調査を実施しています。今の調査方法になった2015(平成27)年度から2020(令和2)年度の間で最も少なかった数168種と比較して、2023(令和5)年度は14種多い結果でした。調査を行った日によって確認できない種もあることから、植物種の数の変動は長期的な視点に立って見ていく必要があります。今後も調査を継続していきます。

(1) 西山をシンボルとする自然環境の保全・再生・活用

① 西山の森林整備

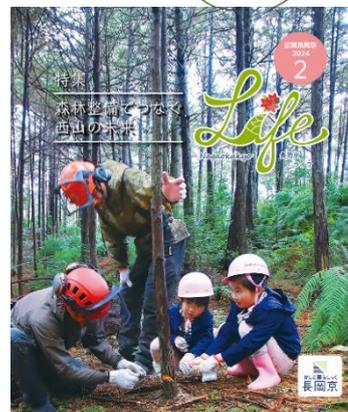
竹林を含む森林整備

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
森林整備面積 延べ336ha	森林整備面積 延べ337.51ha



森林整備とは、森が健全に育ち、地下水の保全や生物多様性、災害の防止などの多面的機能を維持していくために、木を間引いたり、拡大竹林を伐採したりすることです。このような整備で、木が吸収する二酸化炭素の量が増え、地球温暖化対策にもつながっています。2023(令和5)年度は8.08haの整備を実施しました。

また、長岡京市民にとって身近な西山を守り、未来へつないでいくために、まずはより知ってもらうことが大事と考え、広報長岡京に西山の特集記事を掲載しました。森林整備の必要性や、そこに関わる人達を特集することで、身近だけれどもこれまで知らなかった西山の一面にも目を向けてもらえたものと考えます。



特集記事を掲載した広報の表紙

森林整備のうち利用間伐

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
利用間伐面積延べ14.0ha	利用間伐面積延べ14.0ha

2023(令和5)年度は、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に即した対応として、それまでの「公共建築物等における長岡京市産木材の利用促進に関する基本方針」を元に「長岡京市産木材の利用の促進に関する基本方針」を策定しました。森林整備では1.30ha分の利用間伐を実施し、JR長岡京駅東口トイレ内装材、中学校教材、工事用看板等に利用しました。
※間伐とは…健全な森林育成のために樹木を間引くこと。



JR長岡京駅東口トイレの内装

②生物多様性の保全

モニタリングサイト1000里地調査の支援

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
調査項目3項目	調査項目3項目

環境省が実施するモニタリングサイト1000里地調査に、市が参画する西山森林整備推進協議会として参加しています。この調査は、全国の多数の場所で、統一した方法により、各種生物の調査を行うものです。長岡京市内では、西山をフィールドとして鳥類、チョウ類、植物相の3項目の調査を登録しています。



夏にやってくるオオルリ

野生動物と親しむ機会の創出

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
イベントの開催年1回	イベントの開催年1回

例年、冬鳥が観察できる2・3月頃に、野鳥観察をとおして自然環境保全に目を向けていただくイベントとして、バードウォッチングを開催しています。コロナ禍や雨天により、しばらく開催ができていませんでしたが、2023(令和5)年度は、5年ぶりの開催となり、14組25名の方に参加いただきました。

また、西代里山公園管理棟では、長岡京市ゲンジボタルを育てる会が、6月～秋頃までホタルの養殖活動を行っています。豊かな自然の象徴とも言えるホタルの養殖の様子を見ていただくことで、自然環境保全にも目を向けていただくものです。



5年ぶりの開催のバードウォッチング

③西山の有効活用

西山を活用した環境学習

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
西山を活用した特色ある環境学習の実施	西山を活用した特色ある環境学習の実施



市内の各学校で、西山を活用した環境学習が取り組まれました。薪ストーブを設置している小学校では里山学習を兼ねた火入れ式を実施し、いくつかの学校では西山方面への校外活動を行いました。その他、たけのこをテーマに調べ学習をしたり、実際に西山公園体育館の近くでたけのこを掘り出したり、絵に描いたり、学校によって特色のある取り組みが実施されました。

地域の環境活動を担う人材の養成講習会・研修会の実施

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
受講者数延べ 105 人	受講者数延べ 112 人



自然豊かな西山の保全に取り組む人材を育成するため、森林ボランティア養成講座を実施しています。2023(令和5)年度は13人の参加があり、延べ受講者数の目標を達成しました。参加者が継続的に環境活動への参加ができるよう、既存ボランティア団体の紹介や、次回の森林整備活動の案内などを実施します。



森林ボランティア養成講座

西山キャンプ場の有効活用

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
老朽化した付帯設備等の修繕と関係課等との活用方法の検討	老朽化した付帯設備等の修繕



雨風等による木材の腐食により床板や手すりが傷み、危険な状態となった橋数力所について、架け替えや床、手すりの取り換え、補強を行いました。また、水道管近くにおける倒木や、危険木数本の伐採を行いました。今後も西山キャンプ場のあり方については、関係課で協議を進めていきます。

④森林組合の育成

森林組合の組織運営維持

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
組合員数 102人	組合員数 100人



西山の森林整備を進めるために、長岡京市森林組合の組織運営や活動を支援しています。2023(令和5)年度も農業祭や環境フェアでのブース出展の補助や、サントリー天然水の森事業の受注に係る整備業者との調整等により活動を支援しました。

(2)竹林の保全・再生・活用

①竹林の整備

竹林の整備

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
竹林整備面積延べ 27.3ha	竹林整備面積延べ 26.8ha



西山の住宅地に接する部分の多くが竹林です。ブランドの長岡京のたけのこを産出する場所ですが、放置されると森林を侵食して広がり、災害リスクが高まったり、生物多様性が失われたりします。

2015(平成27)年4月に改定した西山森林整備構想において放置竹林の拡大は最優先課題としており、今後も竹林整備に積極的に取り組んでいきます。



拡大竹林の整備

また、いくつかの地点では、竹林整備ボランティアさんが放置竹林整備の重要な役割を果たしています。団体の高齢化という課題があるため、担い手育成のため森林整備ボランティア養成講座(25ページ)を実施しています。別の課題である竹の出口戦略としては、次項の調査・研究を進めていきます。

②竹の持続可能な利活用に向けた調査研究

学術機関・事業者等と連携した実用化の検討

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
京都大学等と連携した資源活用手法の調査研究を継続	京都大学等と連携した資源活用手法の調査研究を継続



2021(令和3)年度から、長岡京市の放置竹林問題の解決に資する取り組みとして、京都大学及び民間事業者等との連携のもと、竹材の成分であるセルロースから酵素を使って生分解性プラスチックを製造し、活用する共同研究を開始しています。産官学等が連携することでそれぞれの強みを生かし、新たな竹の利活用方法を生み出すことが期待されます。2023(令和5)年度も、引き続き調査・研究を進めています。

(3)環境にやさしい農業の推進

①環境負荷に配慮した農業の推進

有機栽培に対する補助金の交付

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
年 300 千円	年 300 千円

特産品の花菜^{ほしろう}の圃場に使用する、環境負荷の少ない有機栽培のたい肥購入に対して、補助金を交付しています。2023(令和5)年度は、JA京都中央長岡京花菜部会に対して補助を行いました。

現在、長岡京市の農家で栽培している花菜は、1990(平成2)年に「京のブランド産品」の指定を受けるとともに、2005(平成17)年から「京都こだわり生産」の認証を受けています。



花菜 (はなな)

②市民の農業理解の促進

シルバー農園の運営

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
利用者数 180 人(最大定員)	利用者数 145 人

長岡京市では、高齢者の生きがいを創るために、60歳以上の方を対象とした「シルバー農園」を市内に3カ所(井ノ内園、長岡園、調子園)運営しており、市民の農業理解の促進にも寄与しています。利用者の健康増進に向けて、今後も継続的な運営を行っていきます。



③地産地消の推進

地産地消推進協議会の開催による取り組みの充実

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
学校給食納品額 1,040 万円	学校給食納品額 1,227 万円

長岡京市の全小中学校で、地元産の野菜を給食に使用しています。2023(令和5)年度は小学校、中学校ともに12品目の野菜を納品しました。特産の花菜、なす、たけのこなども提供されており、児童・生徒の食育の面からも効果をあげています。



④農地の保全

農地パトロールの実施及び農地銀行制度の運営

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
遊休農地 11.7ha	遊休農地 16.6ha



遊休農地とは、農作物を収穫するために使われていない農地のことです。遊休農地の発生を未然に防ぐため、農地パトロールを行い、耕作が不十分な農地については、市の農地銀行制度や国の中間管理機構の紹介、農業委員を通して貸し手借り手のあっせんを行い、担い手への集積を行っています。2023（令和 5）年度の遊休農地面積は、目標達成とはなりませんでしたが、前年度 17.7ha から 1.1ha 減少しました。

※農地銀行制度とは…農家間で農地の貸借を円滑に行うための本市独自の制度。農業委員会が仲介する。

(4)水辺環境の保全・再生

①河川・水路の維持管理

河川清掃支援

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
参加者数 280 人	参加者 250 人



河川や水路などの清掃を行う個人や団体にごみ袋を交付し、活動を支援しています。2023（令和 5）年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類に移行され、行動制限が緩和されたことで、昨年度の 176 人を上回ることができました。地域の方による日頃の清掃活動や、水辺環境の保全につながるため、今後も支援を継続していきます。

②ホタルの保護と育成

ゲンジボタルを育てる会と連携した ホタルの保護活動及び自然環境保全啓発 (ホタル観賞の夕べ含む)

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
保護活動及び啓発の実施	保護活動及び啓発の実施



小泉川に生息するゲンジボタルを保護し、自然豊かなまちづくりにつなげるために、「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」とともに、河川清掃や催し「ホタル観賞の夕べ」に取り組んでいます。2022（令和 4）年度から、これまで場所を変えながら継続して行ってきたホタルの人工飼育活動を、西代里山公園管理棟において実施しており、2023（令和 5）年度も継続しています。



柱 4 都市環境

主要指標 住民 1 人あたり公園面積

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
3.62 m ²	3.37 m ²



目標は未達となりましたが、本市は毎年人口が増加し続けているにも関わらず、住民 1 人あたりの公園面積は前年度 3.3 m² に対し、ほぼ同程度の面積を維持しています。今後も西山公園（第 3 期）や粟生畑ヶ田公園の整備を予定しています。

サブ指標 みどりのサポーターによって管理されている緑地の数の維持

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
192 力所	178 力所



サポーターの高齢化に伴い、解散する団体が増えてきていますが、今後も、はっぴいバスへの広告掲載や緑の講習会で、サポーター参加数を増やす取り組みを継続していきます。

(1) 身近なみどりの保全・創出

① まちなかのみどりの創出

まちなかの公共空地等への植栽

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
まちなかに創出した緑被面積累計 3,380 m ²	まちなかに創出した緑被面積累計 3,698 m ²



前年度 3,346.63 m² に対し、351.37 m² 増加しました。今後も長岡京市みどりの基本計画に基づき、身近なみどりの創出事業で、桜などの植樹を行い、街中の緑を増やす取り組みを進めていきます。



身近なみどりの創出事業で植樹したオタフクナンテン

緑の講習会・グリーンカーテン コンテスト等の実施

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
参加・応募者数280人	参加・応募者数173人



住宅が多い長岡京市のまちなかでは、緑は貴重な資源です。長岡京市では、緑豊かなまちづくりを推進するため、(公財)長岡京市緑の協会と連携し、緑の講習会などの事業を実施しています。2023(令和5)年度は緑の講習会を11回開催し、延べ173人の参加がありました。グリーンカーテンコンテストは2022(令和4)年度を最後に事業を終了したため、目標に対する実績としては、前年度262人から大きく減少しています。グリーンカーテンの啓発については、今後も継続して行っています。

②公園緑地の整備・維持管理

新規公園の整備・市民協働による 既存公園の維持管理

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
住民1人あたりの 公園面積 3.62㎡	住民1人あたりの 公園面積 3.37㎡



目標は未達となりましたが、本市は毎年人口が増加し続けているにも関わらず、住民1人あたりの公園面積は前年度3.3㎡に対し、ほぼ同程度の面積を維持しています。今後も市民が憩える公園を整備するとともに、市民等との協働により適切な維持管理に取り組んでいきます。

③緑の協会と連携した緑化の推進

みどりのサポーター制度の普及

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
みどりのサポーター数 112団体	みどりのサポーター数 106団体



2004(平成16)年10月から始まったみどりのサポーター制度は、市内の公園や道路の掃除、植栽などを行うグループを支援する制度です。

緑の協会に登録を行うと、花苗の提供や清掃用具の貸出などの支援が受けられます。「公園が雑草ではなく、草花がいつも咲いている場所にしたい。」「家の近くの道路はいつもきれいにしたい。」など様々な思いを持って活動していただいています。2023(令和5)年度は、前年度109団体1,369人のサポーター活動だったのに対し、3団体減って106団体1,293人となりました。

サポーターの高齢化等に伴い、解散する団体が増えてくることから、若い世代も参加する緑の協会等のイベントで情報発信するとともに、公共施設等での周知を拡大し、加入を促していきます。

(2)環境に配慮した都市空間整備

①環境配慮型の都市基盤整備

歩道の透水性舗装の施工

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
長岡京駅前線第4工区の 工事に反映	長岡京駅前線第4工区の 工事に反映

歩道に雨水がたまりにくくする「透水性舗装」は、環境に配慮した都市基盤整備と言えます。

長岡京駅前線第4工区(産業文化会館以西から阪急踏切を横断して数メートルまでの区間)について、2023(令和5)年度は、引き続き用地買収を推進するとともに、整備工事に着手しました。透水性舗装については、当該工事に反映をしていく予定です。



長岡京駅前線第4工区

阪急長岡天神駅周辺整備での検討

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
東地区南街区の検討	東口暫定駅前広場の 透水性舗装、防音壁の施工

2023(令和5)年度に完成した阪急長岡天神駅東口暫定広場(東地区に属する)の整備において、雨水浸透や騒音低減策として、透水性舗装、防音壁の施工を行い周辺環境へ配慮した都市基盤整備を実施しました。その他東地区南街区での環境配慮型の都市基盤整備については、阪急連続立体交差事業を見据えた長期的視点での検討を今後行っていきます。



②歩きやすい道路空間整備

バリアフリー・電線類地中化の推進

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
長岡京駅前線第4工区の 工事に反映	長岡京駅前線第4工区の 工事に反映

長岡京駅前線は、JR長岡京駅西口から長岡天満宮・八条ヶ池をつなぐ道路で、歩道や車道が広がることで、誰もが安全に利用できるように、計画的に整備を進めています。歩道の整備においては、バリアフリーや電線類地中化を推進し、快適な歩行空間を確保しています。

2023(令和5)年度は、長岡京駅前線第4工区(産業文化会館以西から阪急踏切を横断して数メートルまでの区間)について、引き続き用地買収を推進するとともに、整備工事に着手しました。



歩行者道の整備

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
整備延長 580m	整備延長 351m

バリアフリー化については、舗装復旧に合わせ、老朽化の激しい側溝の改良により歩行者が歩きやすい歩道を確保するため、野添1丁目地区、長法寺芝端他地区、調子2丁目地区で合計延長290mの整備を行いました。また、歩行者の安全性及び快適性を確保するため、奥海印寺地区、友岡1丁目他地区で合計延長61mの歩道整備を行いました。一部事業の次年度への繰り越しにより、2023(令和5)年度の目標値には届きませんでしたが、今後も優先順位の高い地区から順次整備を進めていきます。



③個性ある景観の保全・形成

景観計画の運用に基づく景観届出審査

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
新景観計画及び景観形成ガイドラインに基づく運用	新景観計画及び景観形成ガイドラインに基づく運用

2020(令和2)年度に改定した景観形成ガイドラインを用いて、新景観計画の景観形成基準を申請者に的確に伝え、良好な都市景観への誘導を実施しています。



④グリーンインフラの活用

グリーンインフラとグレーインフラの比較検討・調査・情報収集

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
JR長岡京駅東口駅前広場における「にぎわい空間」において実施	JR長岡京駅東口駅前広場において植栽の実施

2023(令和5)年度においては、JR長岡京駅東口駅前広場における「にぎわい空間」の未整備により、同空間でのグリーンインフラの活用はできませんでしたが、同広場整備工事において、植栽の設置を行っています。「にぎわい空間」については、2024(令和6)年度に「にぎわい広場」として整備を予定しており、グリーンインフラについても実現可能性の検討を進めていきます。
※グリーンインフラとは、街路樹などに代表される自然を活用したインフラのことで、CO₂吸収源の創出、気温上昇の抑制、土壌創出による雨水の貯留・浸透などの多面的な役割を期待されています。



駅前広場の植栽の一部

(3)歴史文化資源の保存・活用

①歴史文化資源の保存・活用

神足ふれあい町家の活用

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
入館者数 12,500 人	入館者数 10,945 人



市内の子どもや学生、団体との協力のもと、夏まつりを初開催しました。また、ギャラリーを利用した企画展やバザーなどの催しを引き続き行ったほか、ふれあいひな祭りと題したひな飾りの展示は、テレビなどでも放映されました。その結果、入館者数は前年度 10,306 人より 639 人増加しました。

②まちなか博物館ネットワークの整備

「まちなか博物館ネットワーク」の整備

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
「まちなか博物館ネットワーク」の整備に向けた検討	「まちなか博物館ネットワーク」の整備に向けた検討



2022(令和4)年度に作成した長岡京市文化財保存活用地域計画に基づき、「まちなか博物館ネットワーク」の整備に向けた取り組みとして、市の歴史文化の特徴をまとめた「7つのものがたり」を学べる歴史文化ドリルを、子ども向けの啓発用コンテンツとして作成しました。



歴史文化ドリルの表紙

(4)環境美化の推進・住みよい生活環境の維持

①地域の清掃活動の促進

530 運動参加団体への支援

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
支援継続 ※目標設定時参考値 45 団体(令和2年度)	支援団体(107 団体)



530運動とは、ごみを拾うことにより捨てない心を養い、散乱するごみの現状を自分達の問題として考えようという運動です。5月30日(ごみゼロ)にちなんで、毎年この時期を中心に、年間を通じて市内事業所や自治会なども参加して行っています。市では、この運動に参加していただく団体に、ごみ袋の配布や火ばさみなどを貸し出して支援しています。新型コロナウイルスの感染拡大時期は実施団体が減少していましたが、現在はコロナ前と同程度の水準に戻っており、前年度 104 団体に対し、3 団体増加しました。

②環境保全に係る啓発

美化パトロール・ワンワンパトロールの実施

2023（令和5）年度の目標	2023（令和5）年度の結果
環境美化推進員による美化パトロール 週1回年60日 夜間パトロール等におけるワンワンパトロール 月1~2回	環境美化推進員による美化パトロール 週1回年60日 夜間パトロール等におけるワンワンパトロール 月1~2回



ポイ捨て防止の指導・啓発を行ったり、散乱ごみを回収したりするなどのパトロールを行っています。2023（令和5）年度に回収したごみの量は、たばこ 17,905 本、缶・ビン・ペットボトル 663 本でした。

生活環境向上のための啓発

2023（令和5）年度の目標	2023（令和5）年度の結果
広報紙への生活環境マネー啓発記事の掲載	広報長岡京 2 回掲載 市ホームページ掲載



広報長岡京に啓発記事を 2 回掲載するとともに即時的な内容のものはホームページに掲載し、啓発に努めています。

大気汚染や光害等に関する学習会の開催

2023（令和5）年度の目標	2023（令和5）年度の結果
啓発イベントの開催年 2 回	スターウォッチングを 2 回開催



大気汚染で空気が汚れていたり、地上の明かりが強過ぎて夜空全体が明るくなる光害などが原因で、星や惑星が見えにくくなっていることについて関心を持っていただくため、夏と冬の計 2 回、スターウォッチングを開催しました。2023（令和5）年度は計 48 人の方に参加いただきました。



スターウォッチングの様子

③空き家や空き地の適正管理の推進

空き家の発生抑制・適切な管理の啓発及び空き家行政プラットフォームや空き家バンク等の運用

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
空き家の苦情是正率 83%	空き家の苦情是正率 78%



苦情があった空き家の所有者に対し、適正管理のお願い文書を送付し、植物に関する苦情についてはほぼ是正されている状態です。

④環境調査の推進

各種環境調査の実施

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
基準超過箇所減少 ※目標設定時参考値 14箇所(令和2年度)	基準超過箇所 8件



小畑川、小泉川の水質の保全

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
小畑川・小泉川 透視度：30cm以上 BOD：2mg/ℓ以下 PH：6.5～8.5の維持	小畑川・小泉川 透視度：30cm以上 BOD：小畑川 0.5mg/ℓ 小泉川 0.5 mg/ℓ 以下 PH：小畑川 7.6 小泉川 7.6



※上記は、小畑川上流：井ノ内橋、小泉川上流：西代橋の調査結果である。

市では、変化する地域の生活環境を継続的に把握するため、独自に河川水質、自動車騒音、環境騒音、窒素酸化物、農業用井戸水の調査を行っています。2023(令和5)年度の調査では、212項目中8件で基準値を超過しました。毎年10件前後の基準超過が見られますが、いずれも一時的なもので、特に異常は見られませんでした。

★分野横断的施策

(1)ゼロカーボン社会を目指し、環境に優しく地域経済が循環するまち

①環境に配慮した事業活動の推進と環境基金の有効活用

排出量取引を活用した事業の調査研究

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
排出量取引を活用した事業の実施	排出量取引を活用した事業の実施



2022(令和4)年5月、市民参加型の再エネ普及施策として、株式会社ボーダレス・ジャパン及び市内ごみ収集事業者3社と「CO₂ゼロで行うごみ収集事業」協定を締結しました。市民が太陽光パネル設置によって生み出した環境価値(CO₂排出削減効果)を価値化し、市内の燃えるごみ収集事業者が購入することで、理屈上、CO₂ゼロでのごみ収集を実現しよう、との取り組みです。

結果的に、クレジット化するための制度の改定により、本事業は2023(令和5)年度末で終了せざるを得なくなりましたが、市民の方から8.4トン分のCO₂削減効果(クレジット)を提供いただき、2023(令和5)年度のごみ収集に係るCO₂の一部と相殺することができました。クレジットの対価は環境基金に積み立てられ、今後の環境施策のために活用されます。

その他、環境に配慮した事業活動の推進というところでは、服飾関係の事業者である㈱ピエクレックと、資源循環型社会形成の推進及び温暖化対策に関する協定を締結しました。同社開発のたい肥化可能な生地を媒体として、資源循環とPET繊維焼却由来のCO₂排出削減を推進する取り組みを今後検討していきます。

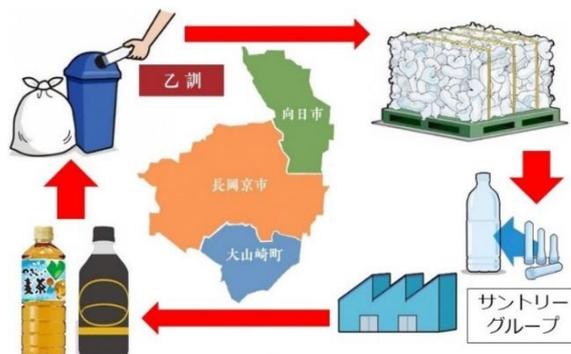
ペットボトルの水平リサイクルの実施

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
取り組み成果の公表	取り組み成果の公表



2021(令和3)年10月、長岡京市をはじめ、乙訓二市一町と乙訓環境衛生組合及びサントリーグループとの間でペットボトルのボトル to ボトルに関する協定を締結し、2022(令和4)年度から取り組みを開始しています。ペットボトルからペットボトルへ、同じ製品に生まれ変わらせる「水平リサイクル」を推進することで、市民のペットボトル排出の方法に変わりはありませんが、製造過程のCO₂や、焼却熱利用されることによるCO₂排出を抑制できます。

水平リサイクル以前はペットボトルが最終的に焼却熱利用されていたと仮定すると、2023(令和5)年度1年間で長岡京市分のペットボトルのみで約491tの焼却熱由来のCO₂を排出削減できたと試算することができます。



BtoBのイメージ図

②グリーンコンシューマー活動・エシカル消費・顔の見える消費の拡大

環境に配慮した事業運営・消費行動の啓発

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
広報媒体等での啓発	観光分野における シェアサイクル事業の実施



限られた区域に観光スポットが点在する長岡京市の特性を生かし、2020 (令和 2) 年度から株式会社あさひとの協定に基づき、シェアサイクル事業を展開しています。所定のサイクルポートであれば、乗り捨てが自由であり、点在する観光スポットを効率よく回っていただくのに適した移動手段です。観光分野における環境に優しい消費行動としても注目です。2023 (令和 5) 年度には、JR 長岡京駅の東西 3 カ所にサイクルポートを設置し、利便性と利用率の向上を図りました。



シェアサイクルの専用ポート (市内に 7 カ所)

※グリーンコンシューマー活動とは、買い物をするときに、できるだけ環境に配慮したお店や商品を選ぶ運動のこと。

アゼリアエコチャレンジプロジェクト

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
参加人数の維持 ※目標設定時参考値 325 人 (令和 2 年度)	675 人参加



長岡中央商店街振興組合、環境経済部、教育委員会が連携して、一学期の社会科の授業でごみの学習を行った小学校 4 年生を対象に、環境への想いを描いた絵画を募集する「アゼリアエコチャレンジ・プロジェクト」を実施しています。2023 (令和 5) 年度は、前年度 414 人と比べて大幅に参加者数が増加しました。

(2)環境と調和のとれた新たな地域の魅力を創造するまち

①みどりと歴史のまちづくり

京都西山再生プロジェクト

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
ふるさと納税寄附件数 累計 160 件	ふるさと納税寄附件数 累計 166 件



京都西山再生プロジェクトは、長岡京市の緑のシンボルである西山の保全に対して、ふるさと納税による寄附を募るものです。2023（令和5）年度の寄附件数は、11件で、前年度12件と同程度の件数の寄附をいただきました。貴重な寄附金を財源に、災害による風倒木の整理、広葉樹等の苗木の植樹、獣害の防止ネットの設置を行いました。



カブトムシやオオムラサキのくらす森の再生を目指すプロジェクト

西山公園（第3期）の整備

2023（令和5）年度の目標	2023（令和5）年度の結果
配水池解体工事実施	配水池解体工事実施

西山公園は、これまでに西山公園体育館やジャブジャブ池、子どもの森を整備し、たくさんの皆様にご利用いただいております。2021（令和3）年度からは新たに広場などを整備する第3期整備を進めています。工事は順調に進行しており、2026（令和8）年度の供用開始を目指しています。

西山のふもとにふさわしい環境と調和した公園であるとともに、様々な方が憩い楽しめるインクルーシブ公園として整備される予定です。



公園の完成イメージ

総合的な文化財保存活用の推進

2023（令和5）年度の目標	2023（令和5）年度の結果
新庁舎歴史資料 展示内容の検討	新庁舎歴史資料 展示内容の検討



2026（令和8）年度の新庁舎グランドオープンに合わせて歴史資料展示室を整備するにあたり、文化財保護審議会等の有識者の意見を聴取しながら基本計画（案）を作成しました。パブリックコメントの結果、4人14件の意見があり、一部を基本計画（案）に反映しました。

②気候変動への適応と地域の魅力創造を両立するまちづくり

気候変動に適応したまちづくり事例の
研究と庁内情報共有

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
先進事例等の調査研究	先進事例等の調査研究



他分野にわたる適応策を進め、地域の魅力創造につなげようと思えば、適応に関する庁内の理解促進が欠かせません。そこで年に1度実施している環境マネジメントシステム（KES）の職員研修に併せ、適応に関する研修を行いました。

グリーンインフラを活用した防災施工の検討

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
JR 長岡京駅東口駅前広場における「にぎわい空間」において実施	JR 長岡京駅東口駅前広場における「にぎわい空間」において検討



2023（令和5）年度においては、にぎわい広場の未整備により実施せず、前年度から引き続き検討を行いました。2024（令和6）年度のにぎわい広場整備に伴い、実現可能性の検討を進めていきます。

(3)エコライフと暮らしやすさを両立するまち

①COOL CHOICE の推進

COOL CHOICE 実践補助金の実施

2023 (令和 5) 年度の目標	2023 (令和 5) 年度の結果
COOL CHOICE の実践を対象とする補助金の利用件数累計 617 件	COOL CHOICE の実践を対象とする補助金の利用件数累計 792 件



設備投資を伴う市民の温暖化対策の取り組みを支援するため、COOL CHOICE 実践補助金を交付しています。2022（令和4）年度から家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの設置補助メニューを追加し（停電時自立発電機能付きのものに限る）、省エネでもあるコージェネレーションを活用した自立・分散型のエネルギー社会を推進しました。2023（令和5）年度の申請件数は、薪ストーブの設置補助3件（300,000円）、住宅窓の断熱改修補助16件（615,000円）、太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置補助20件（2,742,000円）、次世代自動車の導入補助（事業者への補助含む）65件（6,500,000円）、家庭用燃料電池システムの設置補助12件（600,000円）となりました。



補助対象の家庭用燃料電池システムは災害時も心強い

②ごみの出ない暮らし方の推進

マイプラレディ運動の拡大

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
庁外へのマイプラレディ運動の啓発	庁外へのマイプラレディ運動の啓発



マイクロプラスチックによる海洋汚染や廃棄物の増加、気候変動といった環境問題を解決するためには、使い捨て大量消費の行動様式の見直しといった、これまでの慣例を社会全体として見直す取り組みが求められます。市では、特にプラスチックごみの削減について、「マイプラレディ運動=my(私の) pla(プラスチック類は) ready(自分で準備)」を進めています。新庁舎においては、給湯器をボトルの入る仕様のものですることで、職員のマイボトル使用を奨励しています。

2023(令和5)年度は、本取り組みを庁外の企業などでも取り組んでもらおうと、社内掲示などを想定したポスターを作成し、市ホームページに掲載しました。

その他、プラスチックごみを出さない取り組みとして、市役所庁舎に傘のしずく取り器を設置しています。雨の日は傘用ビニール袋の設置が思い浮かびますが、雨しずくを吸収・振るい落とす仕様のもを設置することで、傘用ビニール袋を使用していません。まだ試験的な活用段階ではありますが、今後もこうした細かな点にも環境配慮を行っていきます。



ポスターのイメージ

家庭用品活用コーナーを利用した 家庭用品の再利用推進

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
広報媒体等での啓発	広報媒体等での啓発



「再利用(リユース)」とは、使用済みの製品をごみとして捨てずに、繰り返し使用することです。広報紙や市ホームページにおいて家庭用品活用コーナーの情報を掲載し、再利用を促進しました。

2023(令和5)年度は、不要品提供の情報が92件、希望する情報が79件あり、22件の再利用につながりました。

また、市では、さらなるリユース促進のため、不要品の譲り先を見つけるインターネットサービスを展開する「おいくら」「ジモティー」との協定を2023(令和5)年度に締結しました。市民の新たなリユースの選択肢として利用を勧めています。

③コンパクトなまちづくりの推進

都市再生整備計画事業の推進

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
進捗率 【西山天王山駅周辺】100% 【都心ゾーン】二次計画の推進	進捗率 【西山天王山駅周辺】100% 【都心ゾーン】二次計画の推進



西山天王山駅周辺地区、都心ゾーン地区の都市再生整備計画に基づき、長岡第四小学校建替え事業及び阪急長岡天神駅東口暫定広場整備など各種事業を実施しました。

(4)持続可能な未来を築く人が育ち・学び・人がつながる環境の都

①中間支援組織と連携するなどした環境団体等の活動支援

市民活動サポートセンターの管理運営

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
市民活動・ネットワークづくりに関する相談件数延べ90件	市民活動・ネットワークづくりに関する相談件数延べ78件



メールマガジン、ホームページ、インスタグラム等で、登録団体の活動情報や補助金情報などを発信をしたほか、サポセンフェスティバルを開催し、32団体に出席いただきました。結果として、相談件数は、前年度83件に対し、2023(令和5)年度は78件の相談がありました。今後は、個人と団体がマッチングできる仕組みづくりを検討していきます。

②環境学習の機会の提供

西山ファミリー環境探検隊の実施

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
年4回実施	年4回実施



西山ファミリー環境探検隊は、西山をフィールドにして、家族で自然を楽しんでもらう中で、西山への理解を深めてもらい、環境保全意識の高揚を図ろうとするものです。2023(令和5)年度は、予定どおり全4回開催することができました。

学校現場においては、環境マネジメントシステムの一つである「KES 学校版」を令和4年度に初めて認証取得し、児童・生徒とともに運用を図ることで、環境学習にも役立てています。2023(令和5)年度も継続認証を得ました。



竹を使ってバウムクーヘンの調理
(西山ファミリー環境探検隊)

放課後子ども教室（環境活動体験）等の実施

2023（令和5）年度の目標	2023（令和5）年度の結果
参加者数 150人	参加者数 40人

新型コロナウイルスの5類移行後、放課後子ども教室（すくすく教室）の活動は活発さを取り戻しつつあります。

2023（令和5）年度の環境活動体験企画への申し込みは100人に達しましたが、企画の一つであるたけのこ掘り体験が、たけのこの不作により中止となったため、参加者数実績は竹炭焼き体験と小泉川自然観察の40人となりました。

前年度の31人からやや増加する結果に留まりましたが、自然の中で行う作業や身近な自然について学ぶことを通して、自然を慈しむ気持ちの醸成に寄与したと考えます。



竹炭焼き体験の様子



市民企画講座（「環境」テーマ分）等の実施

2023（令和5）年度の目標	2023（令和5）年度の結果
講座数年 2件 参加者数 50人	講座数年 7件 参加者数 66人

市民企画講座は、その名のとおり市民が主体となって企画するものであり、2023（令和5）年度は、「長岡京竹ドミノ大会」1回と「リメイク缶を作って、多肉植物を植え替えよう」を4回、「カブト・クワガタの採取方法・飼育方法」を1回と「親子で里山体験」を1回実施しました。カブト・クワガタの採集方法・飼育方法では、乙訓地域で実際に捕れたクワガタに触れたり、捕り方や育て方を学んだりして、親子で自然に親しんでもらえる機会となりました。また、親子里山体験では、木を伐ったり火起こしをしたりと体験を通して自然に触れ、自然に興味を持ってもらえるきっかけとなりました。



長岡京竹ドミノ大会の様子



③地域の中で環境を考える学び合いの機運の醸成

環境フェア・農業祭などのイベント実施

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
環境イベントの開催	環境イベントの開催

2023(令和5)年度も、環境フェアと農業祭を合同で開催し、環境と関係性の深い「農」と併せてPRすることで、地産地消による温暖化対策や地元農業振興など、分野横断的な啓発イベントとしました。市民ホールでは、「長岡京市産木材の利用が地球環境と地域産業にもたらす効果」と題した講演会を開催し、長岡京市の西山に対する取り組みを知っていただく機会としました。



講演会の様子

地域内での異なる団体間の交流の機会の創出

2023(令和5)年度の目標	2023(令和5)年度の結果
交流の機会の創出	交流の機会の創出

地域内で環境について考える機運を醸成するため、行政から市民の方への啓発だけでなく、市民の方同士の交流・啓発が活発化するような取り組みを進めています。たとえば、広報長岡京には「みんなの環境メッセージ」と称した新コーナーを2023(令和5)年度も設け、市民の方から市民の方へ、環境問題に向けたメッセージを発信してもらいました。

その他、小学生を対象とした出前授業では、行政だけでなく、市民の環境団体の方とともに講義を行うことで、実感を得やすい、身近な地域の人からのメッセージを発信してもらっています。



地域で活動する市民の方からの講義の様子